

『星の花が降るころに』

安東 みきえ

目標 場面の展開や登場人物の描写に着目して、心情の変化を読みとる。

第一場面

回想 去年の秋

人物・情景描写

・ 銀木犀：甘い香り・星の形

・ 木に閉じ込められた

「私」の様子・気持ち

・ 二人で花が散るのを見上げた。二人で笑った。

夏実との親密さ

夏実との思い出をなつかしむ

第二場面

昼休み（教室）

人物・情景描写

→

戸部君を押しつけるように立ち上がると：



戸部君

この問題わかねえんだよ。

「私」の様子・気持ち

私だってわからない。

いらだち

今日こそ夏実と仲直りしたい。

第三場面

昼休み（廊下）

人物・情景描写

心臓がどこにあるのかはつきりわかった。

音のないこま送りの映像を見ているよう

戸部君

こちらを見ている

「私」の様子・気持ち

心臓の場所がわかるほどにどきどきしている
不安

ショックで呆然としている 落胆 さびしさ

- ・ 声をかける 緊張
- ・ 無視された 絶望

第四場面

放課後（校庭）

人物・情景描写

魂がぬるぬると溶け出してしまいそう 無気力

戸部君

☆ 一人でボールをみがいている。

★ 「あたかもしれない」

「私」の様子・気持ち

☆ 考えていたことが小さくくだらなく思えた。 気
づき

★ 顔を見合わせてふき出した。 涙がにじむ。おかし
さ

うれしさ

● 落ち着きを取りもどす。
・ 戸部君の成長を知り、過去にこだわる自分に気づ

く。

第五場面 帰り道（公園）

人物・情景描写

銀木犀は新しい葉っぱをはやす
かたむいた陽が葉っぱの間からちらちらと差し、半
円球の宙に瞬く星みたいに光っていた。

「私」の様子・気持ち

星形の花を土の上にぱらぱらと落とした。 決意

銀木犀の木の下をくぐって出た。 再出発

・ 自分も古い葉を落とし、新しい葉を生やして生き
ていこう。

|| 新たな希望

・ きつとなんとかやっていける

